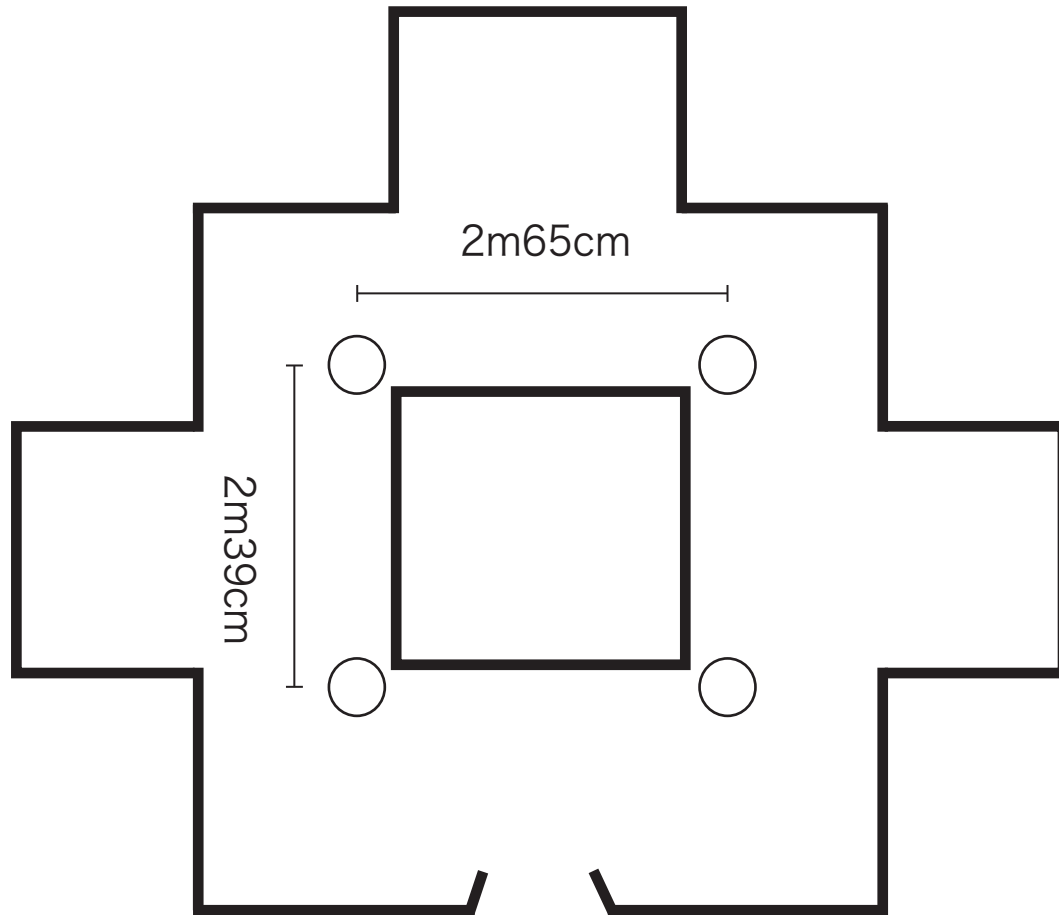


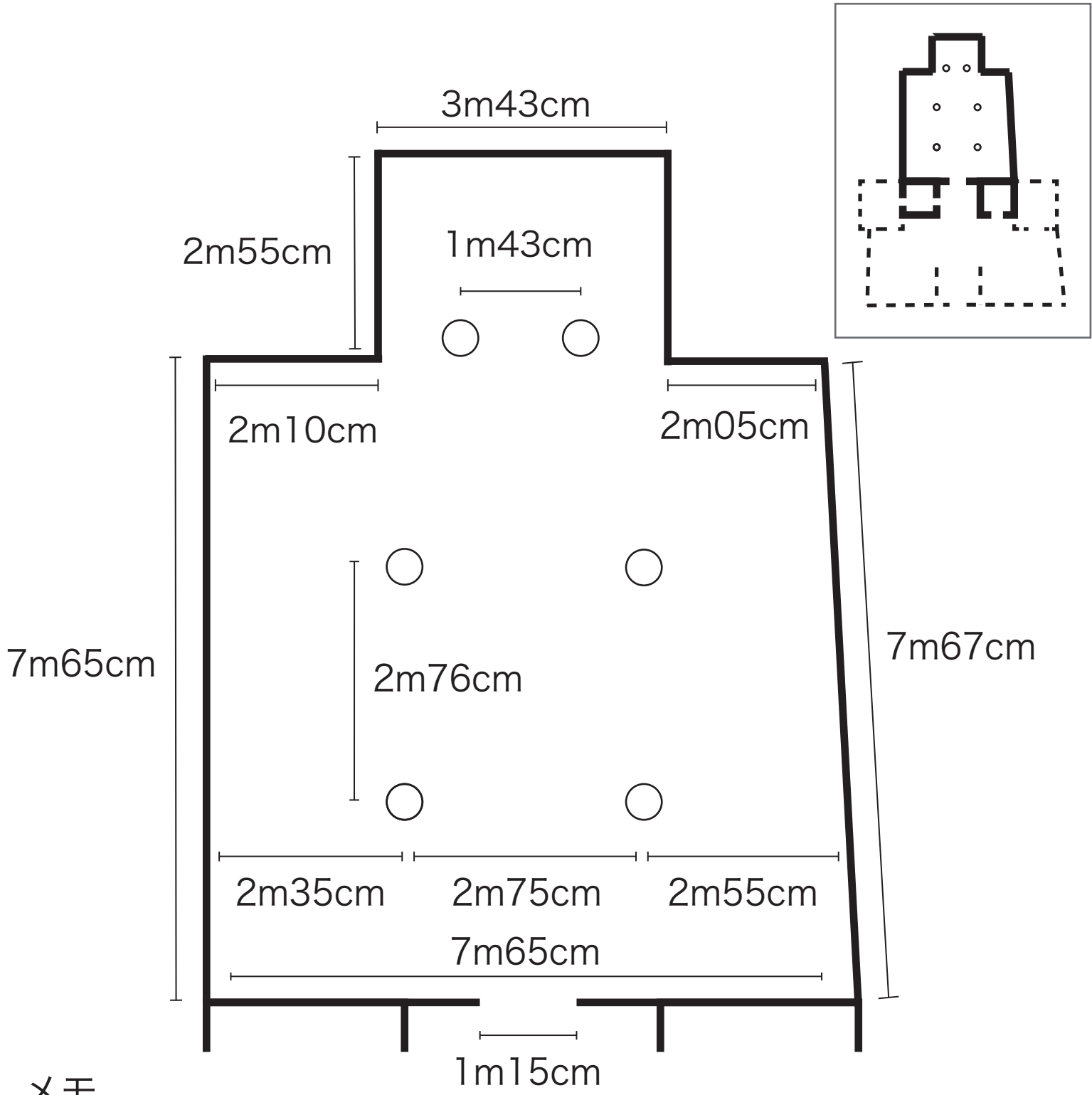
メモ

- ・スムツェク /Sumtsek 三層堂の意（12c末～13c初頭創建か）
- ・ノートでは「スムサック（2階建ホールの名前）」とメモ
- ・①②③表記で壁画についてメモ、千仏画が多い模様
壁画のメイン部分（中央の女神像の輪の直径）など内容やサイズのメモあり
- ・仏伝画についてのメモ、現地語名称のメモ多数
- ・壁画だけでなく扉絵にも注目。その反面、一般ガイド本で重視されている入り口ポーチ上に架けられた木組み、三角形の枠取りが施された三体の仏像など建築意匠や外部の装飾には全く触れず図にも描いていない



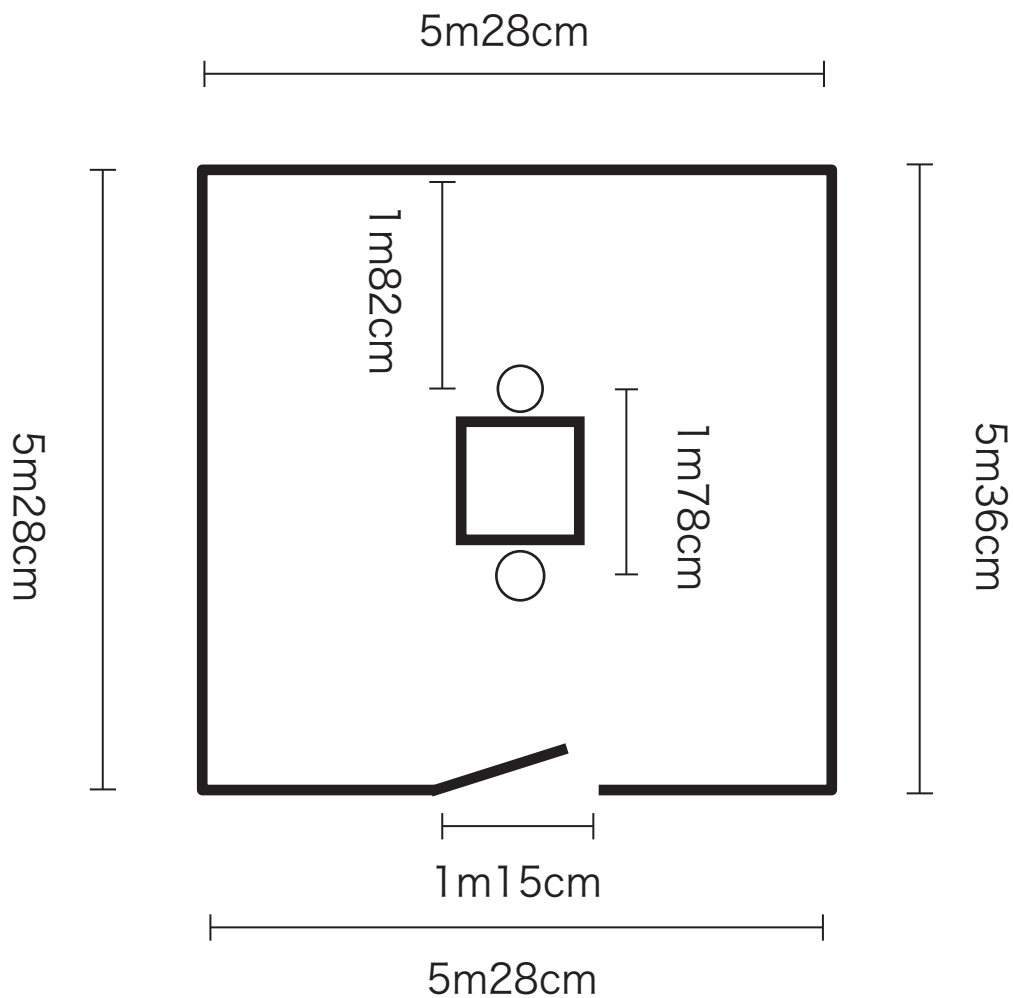
メモ

- ・ 空間内のサイズメモは中央の柱間のみ
- ・ 中央部にメモ「この部分が3層になっている」
- ・ ①②③表記で各立像の高さがメモ
- ・ 一般ガイド本によれば2層目は曼荼羅で、3層目も壁画で表面が覆い尽くされているとのことだが特に図への表記はなし。しかし図の下には立像についてのメモに続いて曼陀羅の直径や餓鬼についてのサイズメモなどが見られる



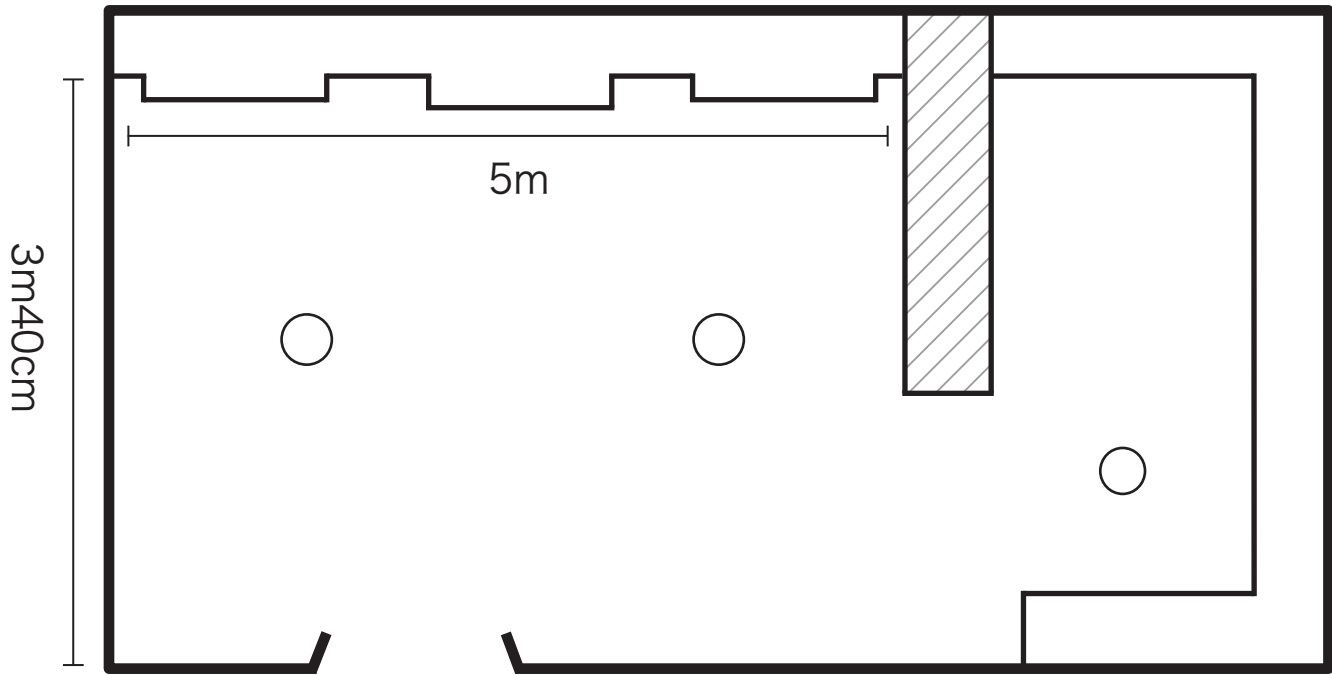
メモ

- ・ドウカン /Dukhang アルチ・チョスコルでは最も古い (11c)
- ・ノート表記では ALCHI GOMPA、ナムパ or ナムザットホール
- ・ABC、①②③表記などで像や壁画などの名称、サイズなどのメモあり
- ・チョルテン (仏塔) や祭壇、祭具等の位置が市販のガイドブックとは異なる



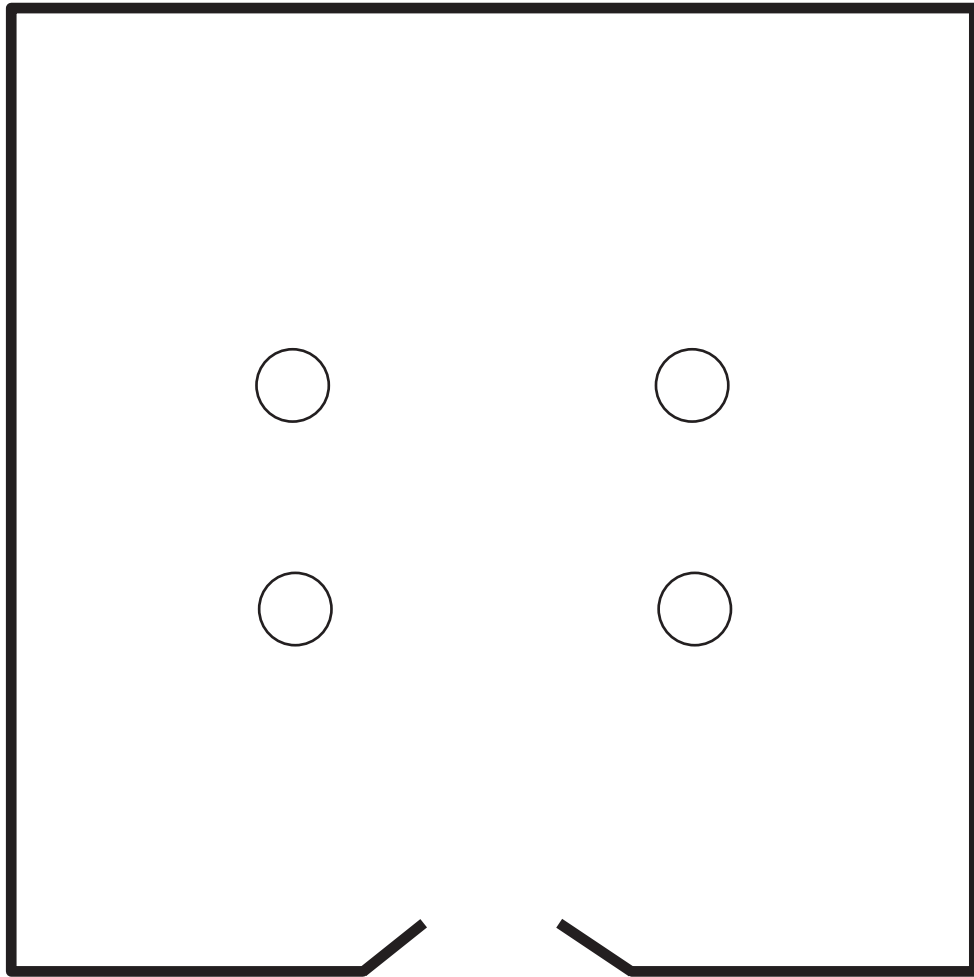
メモ

- ・新堂 ラカン・ソマ /Lhakhang Soma アルチ・チョスコルでは新しいお堂で 13-15c のもの。ノートにはハカンソマと表記
- ・中央チョルテンを挟みギリシャ風の溝彫が施された柱が立つが特に言及なし
- ・内部は四面とも色彩豊かなサキャパ様式の壁画で埋め尽くされており、
西壁：マンダラ 北壁：ブッダと大弟子 東壁：三千仏 南壁：仏伝図
とメモがあり、①②③表記でまた主題名やマンダラの直径、主仏の直径などの記載あり



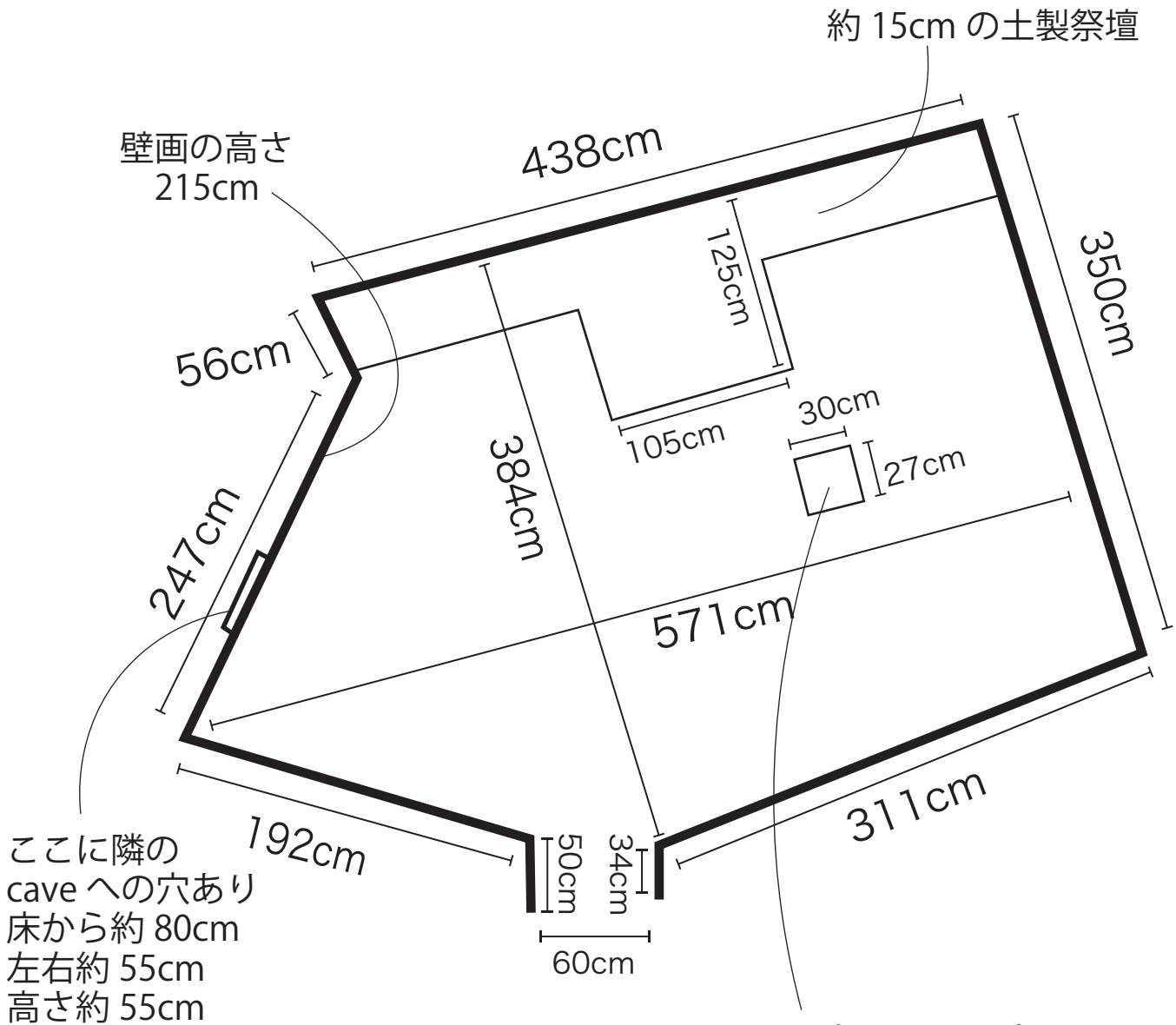
メモ

- ・ラマユル最古の堂センゲガン /Senggegang 11 c 前半の創建と言われるが現存する塑像や壁画は 1220 年ごろ修復されたものである可能性が高い。取材ノートにはシンゲハカンと表記
- ・左の空間がセンゲガン、右の空間がゴンカン。左空間奥、主仏と両脇の側仏について名前等のメモあり。入り口左の南壁西壁にある仏伝図に番号をつけ、主題や該当写真についてメモ
- ・取材ノート冒頭であるためか、図自体へのメモは少ない。各塑像のサイズなどはこの時点では記録していない



メモ

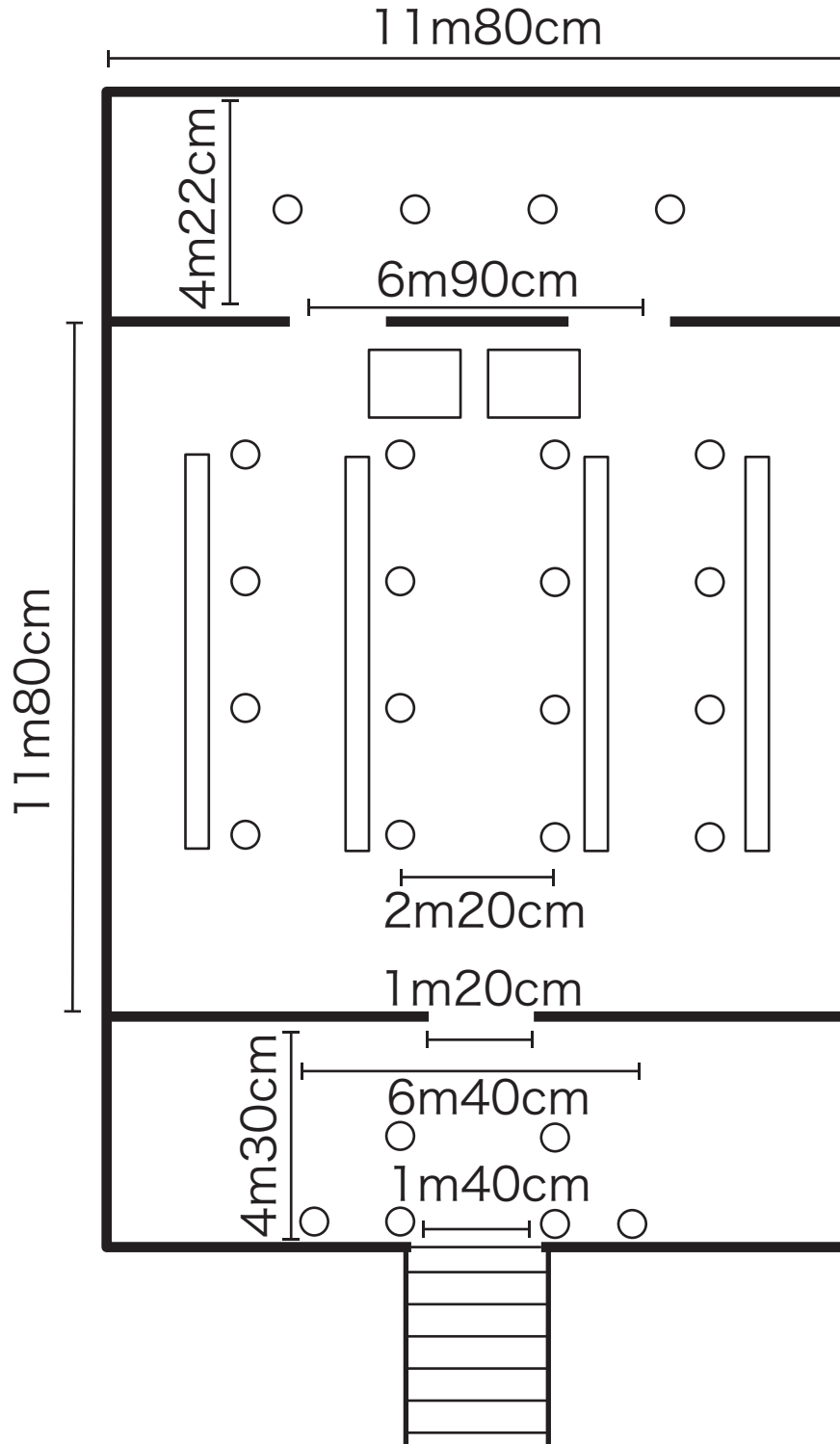
- ・ チューチグザル /Chuchigzal、Thugjechenpo、観音堂とも呼ばれる。取材ノートにはツグジェ・ツェンモが主神である祠堂、と表記
- ・ 他の寺院のような空間サイズメモなし
- ・ 一部曼陀羅の円の天地の長さや描かれた図像の顔の長さのメモあり。
- ・ 正面に本尊、その両脇に小曼陀羅、左右の壁も曼陀羅で囲まれ、棚には経本が置かれている旨のメモあり



- 天井の高さ
約 450cm (最高部)
- 入り口の高さ
115cm

メモ

- ニダクプ・ゴンパ / Nyidaphuk Gompa もしくは単にグダプク (石窟)
石窟数は百以上だが多くは崩れ廃窟となっており中央の数窟のみ内壁が漆喰で固められた仏殿として用いられている。ガイド本では東から 1~5 号窟と仮称されており、図は 3 号窟。取材ノートにはゴンニラブックと俗称を表記
- 最も保存状態の良い石窟、隙間なく壁画が描かれているがそのほとんどの内容 (像、名称、サイズなど) を①②③表記でメモ。
正面祭壇部分には仏陀と大弟子と直接メモあり



メモ

- ・ 4列の柱が並ぶ空間をドゥカン /Dukhang、奥の空間をツァンカン /Tsankhang と呼ぶ。取材ノートには SPITUK GOMPA MAIN HALL と表記
- ・ ①②③... と各像の名称、サイズ等メモ。空間図の中にも詳しく書き込みあり
- ・ 一部曼陀羅の円の天地の長さや描かれた図像の顔の長さのメモあり。
- ・ 天人や聖人、またカンギュル經典のイラストメモや、ラマの階級についてのメモあり